

浜松協働学舎 支える会だより

〒433-8108 浜松市北区根洗町 681 番地の5 ☎053-430-0596
浜松協働学舎を支える会 代表 小林琴代

2015.6.15

NO. 56



グループホーム
コムニオ湖東開所！

施設の概要

名称	コムニオ湖東
種別・定員	共同生活援助 6 名 短期入所 3 名
設置運営主体	社会福祉法人ひかりの園
所在地	〒431-1112 浜松市西区大人見町 3419 番地の 1

コムニオ湖東について

コムニオ湖東は共同生活援助定員 6 名、短期入所定員 3 名のグループホームです。知的障がいに加え身体障がいのある重度重複障がいのある方々が快適に暮らすことができるよう、建物全体がバリアフリーになっており、個々のニーズに対応できるつくりになっています。

浜松協働学舎の他グループホームと異なる点は、短期入所を併設していることと夜勤者が置かれていることです。短期入所併設により、在宅で暮らす方の自立生活の体験の場、ご家庭の介護の軽減などの地域のニーズにも応えます。夜勤者が置かれることにより、夜間の支援が必要な方の地域生活の実現を支えています。

四月からコムニオ湖東が開所し、新生活が始まりました。ご利用者、職員ともに最初は新しい環境に戸惑ったり、落ち着かないこともありましたが、一か月が経ち、新しい建物、仲間、生活リズムにも少しずつ慣れてきました。ソファに座ってのんびりしたり、お風呂にゆっくり入って温まったリ、キッチンから料理のいい香りがしてく

ると、そばに行き調理の様子を眺めたり、皆で食卓を囲んでできたての食事を食べたリ、居室で一人の時間を楽しんだり、他のご利用者の傍らで一緒の時間を過ごしたりと、家庭的な雰囲気のある毎日です。

グループホームに来て、自己主張が増えたり、食欲が増したりと、ご利用者の変化を感じ、嬉しく思っています。

先日は四月生まれのご利用者の誕生日会をしました。皆さんで食後にケーキを食べ、お祝いをしました。日々の生活に加えて、季節行事や外出の機会も設け、余暇も充実させたいと思います。

コムニオ湖東がご利用者の第二の家庭として、実家にいるときのようにくつろげるホームになるように、生活の中でご利用者一人ひとりに合わせた環境作りや支援方法を日々考え、改善や工夫を重ねながら、ご利用者が過ごしやすい、安心できる豊かな地域生活を送れるようサポートしたいと思います。新たに仲間入りしたコムニオ湖東をよろしく願います。

(佐々木)



成人を祝う集い

成人を祝う集いが一月十三日に浜松協働学舎根洗寮にて開催され、大人への仲間入りをみんなでお祝いしました。今年には五名の仲間が新成人を迎え、施設の仲間たちや職員、来賓、保護者が見守る中、高木室長をはじめ、来賓の皆様より多くの祝いの言葉を頂戴し、また先輩からは激励の言葉ももたらして、決意も新たに大人への一歩を踏み出しました。皆いつもと違った正装にやや緊張した面持ちでしたが、花束や記念品を輝いた表情で受け取っていました。二十歳という節目を迎え、新成人の皆様のご成長を喜ばせています。御成人、本当におめでとうございます。

(袴田)



おめでとうございます！

親睦旅行 男旅IN福岡

ここ最近工房めいでは、皆さんにとっておきの思い出という思いで、普段の旅行とは一味違ったプランを企画してきています。沖縄、北海道に続き、今回は食の宝庫・福岡まで足を伸ばしました。そう、もちろん飛行機で！太宰府天満宮や、屋根のないオープントップバスに乗り、ヤフオクドームや福岡タワーなど福岡の名所を観光することができました。また、フグにもつ、明太子、屋台にラーメンに、福岡のグルメはどれもおいしいものばかりで、まだまだ食べ足りないほどでした。今回の旅行のテーマは男旅。女性メンバーと行く旅行の楽しみもありますが、男だけで気兼ねなく、ワイワイ行く旅行も楽しい思い出となりました。

(野田)



博多山笠の前で！



太宰府天満宮で記念撮影♪



オープントップバスで市内観光

ねあらい春のやきものまつり

毎年恒例の「ねあらい春のやきものまつり」が三月におこなわれました。晴天にも恵まれ、当日は大盛況！多くの地域の方々にもご協力を頂き、今回もアトラクションやフリーマーケットなどさまざまな形で盛り上げていただきました。陶芸は「春の花、うつわ展」と題して植木鉢や花器をメインに展示し、購入者にガーベラや苗をプレゼント。皆さん購入した陶器に合う花を、嬉しそうに選んでいました。アトラクションコーナーでは、太鼓や高校生による楽器演奏、マジックショーなどの活気あふれるステージが！多くのお客様が足を止め、会場を大いに盛り上げていただきました。



ショップ側のこもればパンでは、りんごのカスタードパンなどの新作が好評で、すぐに売り切れていました。青葉のうどんコーナーやお汁粉の振る舞いも好評で、休憩コーナーではご家族で舌鼓を打つ姿が多く見られました。おかげさまで陶器や食品などの販売も好調で、なにより皆さんの多くの笑顔を見られたことが嬉しかったです。次回は十月十日(土)、秋のやきものまつりで皆様のご来場をお待ちしております。

(今田)

平成二十七年 入所式

新たに浜松協働学舎に入所された方たちの入所式が、四月一日に根洗寮にて行われました。今年度は青葉の家に片山稜平さん、池谷和樹さん、森本翔太さん、工房めいに村木優太さん、工房だんに天野はるみさん、亀田周孝さん、鈴木克哉さんの七名の方が仲間入りをしました。



皆さんのご活躍期待しています！

初めは緊張した面持ちの方が多かったですが、当日はたくさんの方の浜松協働学舎の先輩たちもお祝いに駆けつけ、和やかな雰囲気の中に、少しずつ緊張も和らいでいくようでした。

司会者に、お一人おひとり名前を呼ばれ紹介をされると、照れくさそうにしながらも、胸を張って前を見据える姿は、頼もしい限りでした。式の最後には浜松協働学舎の舎歌をその場にいた全員で歌い、浜松協働学舎の一員になったことや仲間が増えたことを祝いました。

新入所者の皆様、大きな期待を胸に浜松協働学舎に来られたことと思います。これから、色々なことがあるかとは思いますが、浜松協働学舎の仲間たちと毎日を楽しんで過ごしましょう。どうぞよろしくお願いたします。

(足立)

ほっぷ・すてっぷ・ぱれっと

親睦旅行 ゆったり・まったり

グループホーム(ほっぷ・すてっぷ・ぱれっと)の旅行は、毎年利用者さんのそれぞれの意向にそった企画を立てています。今年度の旅行は様々な趣向を凝らしながら、四回に分けて企画をしました。第一弾としまして、五月十四日・十五日と、ゆっくりのんびりと旅行を楽しみたいメンバーたちと河口湖方面へ行きました。

富士山の伏流水に水源を発する湧水池の忍野八海でゆっくりと池を眺め、ミシユラン観光ガイドで三つ星の久保田一竹美術館で芸術作品を鑑賞し、ホテルでは和食のコース料理を堪能してきました。二日目には、まさに今が頃で、多くの観光客で賑わっ



芝桜の絨毯がきれいだね〜♪

ている富士芝桜まつりに立ち寄ってきました。富士山麓の広大な敷地に咲き誇る八十万株の芝桜は圧巻でした。皆さんの日頃の行いが良く、二日間共、晴天にも恵まれて、富士山を眺めながらの身心もみたまされた観光になりました。

(花田)



ラグジュアリーな旅を満喫しました！



こもれば

親睦旅行 琵琶湖を満喫！

少し早い台風が通り過ぎた五月の晴れた日、グループホームこもればは一年に一度の親睦旅行に行ってきました。今年度の目的地は滋賀県琵琶湖周辺。日本一大きな湖、琵琶湖を一周は無理でしたが、雄琴温泉に宿をとり、周辺の琵琶湖南側の観光を楽しんできました。

津港から出ている琵琶湖クルージング船は、目を見張るほど大きく豪華で、展望デッキにはハート模様もあるなど、とても可愛いらしい船でした。そんな大きな船に乗り、約一時間の琵琶湖クルージング。天気も良く、琵琶湖は波が穏やかなので、のんびり琵琶湖を堪能できました。二日間、美味しい湖の幸もいただくことができ、こもれば利用者の皆さんも大満足♡今年も良い旅行となりました！



琵琶湖クルーズ！！最高だね〜♪



(佐塚)

「自閉症スペクトラムの理解」

杉山登志郎氏

浜松医科大学児童青年期精神医学講座特任教授
子どものこころの診断所医師

自閉症スペクトラムとは、重知的障害のある自閉症からアスペルガー症候群まで、広汎性発達障害を連続的にとらえた概念の名称です。もともとアスペルガー症候群は「知的障害のない自閉症」とも言われており、自閉症との違いが必ずしも明確ではありませんでした。そのために、広汎性発達障害全体を連続体（スペクトラム）としてとらえることの必要性が提唱され、二〇十三年に米国精神医学会の診断手引きが改定され「自閉症スペクトラム」という名称が用いられることになりました。

浜松協働学舎親の会および浜松協働学舎では、さる二月一日に「自閉症スペクトラムの理解」と題した福祉講演会を浜松科学館ホールにて開催しました。講師には、この分野の第一人者である浜松医科大学児童青年期精神医学講座特任教授、子どものこころの診療所医師の杉山登志郎氏をお招きし、当日は約三〇〇名近い多くの方が参加されました。杉山先生の講演の骨子をご紹介します。

DSM-5について

浜松医科大学の杉山です。今日は、自閉症スペクトラム（ASD）について話をすすめますが、「自閉症スペクトラム」という名称は、DSMの第5版（DSM-5、二〇十三年）において用いられるようになりました。DSM-5（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders）は日本語に訳しますと「精神疾患の診断と統計のための手引き」といい、アメリカの精神医学会が作成した診断の基準がずらつと記された本です。これが国際的に標準的な診断基準として使われています。国際的診断基準とされるようになったのは、一九八〇年に作られたDSM-IIIからのもので、世界の基準となつたのは画期的なことでした。そしてDSMは一九八七年まで小改訂が行われ、一九九四年にDSM-IVが出版しました。DSM-IVからDSM-5では十九年かかっています。なぜかというところ、この間にいろいろの研究がすすんできたからです。なぜ今回だけ「5」というアラビア数字かというと、今後5.1、5.2、・・・とバージョンの改良を重ねるために、ローマ数字ではなくアラビア数字を使っているようでありませう。

発達障害では、DSM-IIIで初めて自閉症の上位概念として「広汎性発達障害」という名が登場しました。なぜこんな名前がついたかというところ、特異的発達障害（学習障害）との比較のためです。学習障害では、知的なハンディはないが、ある勉強が全然できない等、幅の狭い問題が起きます。それに対し自閉症CD-10もそうですが、三歳から五歳の時に見られる自閉症の典型的な症状を出して診断基準に使っていました。そうすると大人になつてから初めて診断に来るケースで父母が他界しているところ、幼児期の様子が分からないため診断ができないという困つたこともおきていました。新しい診断基準では、一つ目には年齢特異的な要素が全て省かれています。

二つ目には、感覚障害の問題が診断基準に入ってきています（感覚入力に対する感受性あるいは鈍感性、あるいは感覚に関する環境に対する普通以上の関心。感覚障害こそ非常に中核的な問題であると分かってきたのは、当事者の自伝や伝記が出た後からであり、いかにそれが彼ら彼女らを苦しめているのかということが分かり、やっと診断基準に入ってきました。

自閉症スペクトラムとネコ

「すべてのネコはアスぺ」という英語の絵本があります。自閉症スペクトラムとネコは共通点があります。例えば人に合わせるのが苦手であったり、こだわりが強かったり、先の予想ができない。一人で行動する。しかし人を求めていないわけではない。また犬よりも柔軟な学習能力を示すことがある。そして仲間と群れていじめやケンカが少ない。「ネコはマイナスの強化子から馴れできない」と言われます。首にリードをつけてみると犬は柔軟に対応することにに対し、ネコは大パニックになります。ただリードが不可能ではなく、少しでも良い行動を褒めご褒美を与えることで、最終的に嫌なこともできるようにになります。つまり、良いことを強化することによってだけ、不快を伴うこともできるようにになります。

また、パニックは恐怖から生じます。一度強烈に怖い体験をすると忘れることはできません。特に知的にハンディを伴った自閉症の方は、特に怖い体験を根強く覚えていきます。

適応的な行動は準備が必要であります。ネコにはネコのよさがある、犬には犬のよさがある。しかしネコはネコ。犬は犬であり、ネコが犬に変わることはできません。

発達障害と子ども虐待

今まで発達障害と子ども虐待の問題はあまり注目されていなかったのですが、発達障害と虐待の関連についての議論が非常に増えてきています。まず発達障害、特に自閉症圏では、子育て困難（虐待）を招きやすいです。これは一見普通の子どもに見え、言葉も発達するため診断が遅れやすく、非社会的な行動も「馴」で何とかしようとします。「馴」はあつという間に虐待に結びついてしまします。ただそれだけではなく、多因子モデルを考えてみると、自閉症圏の両親は凸凹を抱えた方が多く、特に母方にアスペ的な要素があると愛着が遅れます。これが愛着の遅れどろしの掛け算になつてしまい、虐待が起こりやすくなります。子どもが発達障害診断で、親側も障害とまではいえないが発達凸凹を抱えています。しかも、子ども虐待を親自

圏は、学習障害も起きる、ぶきつちよさも起きる、社会性の問題も起きる、言葉の問題も起きると非常に広い範囲に渡つて発達凸凹が起こつてきます。そのため「広汎性」という名前が付きました。

DSM-5では「神経発達障害群」というものが登場しましたが、これにはいくつかの画期的なことがあります。一つは知的な障害がこのグループに入りました。実は今までは知的障害は別枠に入つておりましたが、今回から発達障害の中に知的障害が入れられました。知的障害が発達障害だとすると、発達によつて臨床像が変化するため、診断基準を満たしたり満たさなかつたりすることがあります。異なつた病因に基づくよく似た臨床像の区別ができないということも起きます。（例、子ども虐待による多動と注意欠如多動性障害による多動の区別がつかない、解離性の幻覚と統合失調症の幻覚の鑑別ができないなど）おそらく二年以内に新しい「診断学」が生まれます。診断のカテゴリーが変わつてくると、行政的にも「知的障害」という独立の部分がなくなります。つまり知的障害を独立して分ける必要がなくなつてくるわけです。

また、DSM-5では、知的障害の重症度をIQで区分することがなくなりました。これはなぜかというところ、IQというものは非常に変動するからです。そもそも知的障害は世界的に全人口の2%くらいといわれていましたが、現在先進国ではだいたい0.8%です。なぜこんなことが起こるのかというところ、早期教育の普及にあります。教育をするとIQは上がります。世界のIQの平均値は上がり続けていますが、これをプリン効果（Flynn effect）といいます。

発達障害はどこまで広がりを見せるのか？

発達障害はどこまで広がりを見せるのか、これは自分のような発達障害を専門にしてきた人間でも恐ろしくなつてきている状況であります。人口の統計で、知的障害は0.8%くらいですが、自閉症スペクトラムは日本と韓国では率が高いと報告され、2.6%だとされています。イギリスやアメリカでは1%、2%台です。そして注意欠如多動性障害は3、5%ですが、発達の凸凹を含めると10%を超えます。学習障害は3、5%ですが、重複障害を含めると10%を超えます。学習障害で一番の重複は自閉症スペクトラム障害であります。これらをすべて足すと、約一割が発達障害があることになりました。この一割の数が変な数ではないのは、二〇十二年に文部科学省が通常クラスに対して行った調査で、発達障害が疑われる子が6.5%という結果がありました。

身が受けていて、子どもと親がにらみ合いになつてくることもあります。また非行も発達障害関係が増えてきています。これは子ども虐待の後遺症として発達障害の症状を出すため、原因の元が分からなくなつており、さらに世代間連鎖で、世代を超えると余計に原因の特定はできなくなつてしまします。

児童自立支援施設で何年前にケアワーカーから子どもへの暴行事件が起き、調査や介入を依頼されたため、全児童調査を実施しました。私は、非行児の大多数が被害者であるため、虐待によつて解離性障害が起り、記憶が飛んでしまうために指導が入らないのだと思つていました。調査の結果、実際に解離性障害は見られましたが、それは全体の三割から四割程度でありました。

しかし、解離性障害以外の違う要素も多く見られています。自閉症スペクトラムが75%。ADHDが47%。どちらかが81%に上りました。こうなると今までの情緒的なつながりで指導をしても、上手くいかないことは当たり前です。私はこの結果がとてもショックで、県でトップの心理士に話をしました。私は彼の驚く反応を期待していましたが、彼は「あー。やっぱり。」といった様子でありました。彼もその時期に他の情緒障害児の施設に入入つており、発達障害ではないと明らかに分かる子ども一人だけという状況であったようであります。

そのくらい情緒障害も非行も発達障害と密接な関係にあり、しかもこれらはすべて子ども虐待との掛け算になつていきます。子どもも親側も発達の凸凹なのか、虐待なのか、その掛け算なのか、よく分からないという状況が起きています。そのため子どもだけの治療をしてもらちがあかないということ、積極的に親の側のカルテも作つて治療するようになつてきています。実は以前からも私は行つてきたことですが、現在自分の外来では、受診してくる子の三割が親までカルテを作つています。

トラウマ治療

最近の外来に来るケースで、子どもが発達障害で、親側には発達障害までのレベルには至らないものの、発達の凸凹レベルが多く見られ、暴力被爆など迫害体験の既往が多いというケースが非常に多く見られています。また、鬱（うつ）病も多くみられ、特に非定型的な鬱（うつ）の中に躁（そう）が混じるという双極II型が多くみられています。そのためEMDRというトラウマ治療（指を顔の前で動かして眼球を左右に動かしてもらいながらトラウマ記憶を思い出してもらつと、トラウマ記憶から心理的な距離が取れるという治療法）が必要になるケースがよくあります。

児童精神科として、この静岡県は日本でも有数のレベルが高い状況ですが、難しいケースが増えてきています。発達の問題だけでなく、子ども虐待の問題。そして両方の掛け算の問題もみられます。

ます。二〇十二年の段階で支援クラス、支援学校をすべて入れて日本で特別支援教育を受けている子どもが29%。この両方をたすと約一割になります。ですから、子どもの一割が発達障害というのは不思議ではない数字です。

多因子モデル

こういった頻度の高い問題について最近の知見の中では、多くの発達障害が多因子モデルであることが明らかになつてきました。疾病は、素因と環境因で生じるという考え方です。一つの遺伝的な要因が病気のラインを超えてしまうのではなく、いくつもの素因が積み重なつた時に初めて病気のラインを超えるのです。最近特に注目されているのは、自閉症スペクトラム障害では、遺伝的な要因よりも環境因の方が大きいのではないかとということが定説になつてきています。これはある研究者が、大よその数で遺伝的な素因が「3」に対し、環境因が「6」という、二倍くらい環境因が大きいという推定値を出しています。

発達凸凹 + 適応障害 = 発達障害

DSM-5で初めて自閉症スペクトラムという名称が登場しました。「スペクトラム」とは連続体という意味で、スペクトラムの代表的なものに「虹」があります。虹は赤から紫までどこまでが黄色で、どこまでが緑と線が引かれるわけではなく、ぼんやりとした色合いで変わってきます。これがスペクトラムであります。つまり自閉症グループの中には軽い者もいれば重い者もいます。それを全て一列に並べようというわけです。この考えでいった場合、軽いグループとは何かというと、軽いグループの外側に発達凸凹を抱えた変わった人がいて、さらにその外側に、ちよつと変わった普通の人がいるというわけです。そうすると、非定型群が多くなることは当たり前のことです。これは多因子モデルの考え方に一致した考え方です。むしろ逆に多因子モデルでは、このスペクトラムという名前が付いた診断のほうが非常に分かりやすくなります。例えば我々は発達の凸凹と呼んでいます。自閉症圏において典型的に認められる認知凸凹は、決してマイナスとは限りません。何らかの認知凸凹がありながらも、なんとかか社会生活をこなしている大多数の人々は、それなりのサポートがあつて、良好な適応を維持できているのです。多因子モデルでは、発達の凸凹に適応障害が重なつて発達障害になると考えられます。

感覚障害

診断基準の中で注目したいのは、これまでのDSM-IV、Iつまり、発達の問題があり愛着が遅れる。子ども側に社会的な苦しさがあれば親子関係が遅れるのも当たり前です。ADHDの多動を伴つた自閉症スペクトラムも同様であり、トラウマを受けやすいです。問題行動は叱つて正すのではなく、褒めていかなければいけません。コツは短く叱つて（60秒）、褒めるのは長くても構いません。そして子どもだけでなく、夫婦相互に褒めた方がよいと思ひます。

そしてこちらから見ても何の問題も見えないケースでも、トラウマ処理をしっかりと行つてみると、保育園時代の保育園の先生との間のいろいろなやり取りの部分にフラッシュバックが強く出ていることが分かりました。そしてトラウマ処理を行つたら、明らかに臨床的なレベルが一段上がりました。これはショックな教訓的なことで、こちらからみると何もなく見えても、自閉症圏の方には何らかのトラウマ的な体験があるということでした。トラウマの存在があると発達障害の増悪因子になります。これらのことから、親子を踏み込んで支援が出来るセンターが必要であると痛感しています。

教育について

宮本信也先生が最近まとめた中に、教育に関係する二つの虐待というものがあります。一つは教育的なネグレクト。これは教育を受ける子どもの権利を阻害する。学校に行かせない、放置、子どもに必要な教育（例、特別支援教育等）を受けさせないことです。

二つ目は教育的虐待であります。子どもの適正、年齢、緊張を考えない教育。叱責や暴力や体罰などの行為を行いながら子どもを学習に向かわせる行為。子どもの意向や適性を無視した指導教育のことです。教員の資質の問題ではなくシステムの問題もあります。憲法では第二六条すべての国民は法律の定めるところにより、その能力に応じて等しく教育を受ける権利を有するとなつており、これらの問題は憲法違反であります。

それから特別支援クラスの問題です。浜松の特別支援学校は拠点校方式の後遺症が続いています。通常クラスにいる65%の発達の遅れや凸凹を抱えた子どもたちに対し、現在数校に一枚しかない特別支援クラスで対応できるのか。そして特別支援クラスに行きそこで「遊ぶ」のではなく、そこで本人にあった「教育」を受けさせてほしいと思つておられます。なぜ私がこんなに教育にこだわるのか？それは発達障害、凸凹の治療は教育だからです。自閉症スペクトラムというのは生来の社会性の凸凹です。つまり治療とは何かというと、社会的な苦手を修正することです。これは社会的な経験を積める場でしか得ることができないのです。したがって学校以外の場で行うことは不可能であると思つておられます。医療の役割は凸凹な教育が行われるための側面的な援助です。治療の場は、医療の場ではなく教育の場なのです。

新人職員紹介



鈴木伸幸
(まど)

はじめまして！鈴木伸幸です。三月まで市内の他法人の障がい者支援施設で支援員をしていました。二十年間同じ所で勤めてきましたが、道に迷っているところを拾われました。
今まで直接支援の現場でしか経験がありませんので、相談支援という新しい世界に四苦八苦しております。ご迷惑をお掛けすることもありますが、暖かく見守ってください。



鈴木朋美
(まど)

『わからなくなってきました』宮沢章夫さんのエッセイ、大好きです。その本を読まずして、ある金曜の16時20分、ケタケタ不気味な笑いがまどに響き渡りました。「朋美さんは、ワライダケでも食べたのか!？」集中したい皆様に甚だ迷惑なワライダケ現象の原因は、集中力が途切れ、働いてきた自浄作用でしょうか。感わされてはダメだと健気に頑張る鈴木さん三名様。そんなあったかい鈴木さんが揃ってます(笑)まどに、是非お気軽にお立ち寄りください!



鈴木杏子
(まど)

昨年十一月に浜松に嫁いできたところ、浜松協働学舎とのご縁があり、十二月から相談支援事業所まで働いています。新卒で就職したのは、障害者入所・通所、重症心身通所をしている施設で、上の階には高齢者施設がある東京の複合施設でした。相談の仕事は初めてで分からないことだらけですが、いつも頼りになる大先輩に囲まれて勉強させて頂いております。まどは西区にありますがお近くにきた際にはぜひお立ち寄りください!



影山亜古
(工房ゆう)

年齢はベテランのようですが、福祉のお仕事は初めての一年生です。見た目と中身のギャップに驚いたと言っていた(笑)先輩方に支えられてもらいながら楽しく働いています。体はついてこなくとも、やる気は满满です! よろしくお願います。



中嶋豊
(工房ゆう)

昨年十月に、ご縁をいただきました。浜松協働学舎で働かせていただきました。短い期間でしたが、根洗作業所ではご利用者や、先輩職員から沢山のエネルギーをいただきました。本当に感謝しております。



江川美沙
(根洗寮)

さらに今年一月から、またご縁をいただき現在は工房ゆうにて働いています。ここでもまた、素晴らしい日々を送らせていただいております。ご利用者の笑顔が、私のエネルギーの源です!

私は、四年制大学で美術と心理療法を専攻していました。鮮やかな色の配色が好きです。新社会人となり、福祉の世界に飛び込み日々刺激的な毎日を送っています。優しい先輩方のサポートのおかげで、少しずつですが、福祉の世界の仕組みや実践的な事など様々なことを勉強させて頂いております。ご利用者の気持ちに寄り添い、個々の個性的な面白い所を発見しつつ楽しく支援していきたいと思っております。よろしくお願います。



牧聡子
(根洗寮)

けっして若くはありませんが、その分、今まで積み重ねてきた時間が反映される様な開わりができればと思っております。今は、新しいことの連続で日々勉強させて頂いております。感謝・感動を忘れずに、その時を大切に過ごしていけたらと思います。



小池理貴
(根洗寮)

日々かわるご利用者の様子に類笑みながら、目がまわる思いで支援の難しさを痛感しております。浜松に来て三年経ち、以前も同様の仕事をしておりましたが、十人十色という言葉があるように、一人ひとりの個性、性格に驚きを感じつつ楽しさを覚えております。



菅島志帆
(根洗寮)

また私自身変わっているとよく言われています。ご利用者や保護者をはじめ皆さんを戸惑わせているかもしれません。皆さんの個性も自身の個性も大切に、謙虚さは忘れず変わっているなりに筋は通しているかと思っております。

ご利用者と日々の生活を送っていく中で、少しずつ慣れていく自分と分からない事やどうするべきなのか悩み考える自分がいます。一日、一日があつという間で、同じ日はないことを最近強く思うようになりました。だからこそ、日々の関わりでの積み重ねが大切なことだと実感しています。自分らしさを出した支援が出来るように頑張りたいです。



宮下孝輔
(青葉の家)

「さわやかです」。突然何?とお思いでしょう。これは炭焼きハンバーグレストランでの出勤時の挨拶なのです。少しばかり気分が優れなくても元気が無くてこの挨拶をする決まりだそうです。言葉には魂が宿り、声にした言葉は現実の事柄に対して何らかの影響を与える力がきつとあると私は信じています。「大丈夫、心配ない」「うまく出来るよ」。そんな言葉の響き渡る穏やかな暮らしを青葉の家で実現していきます。



山口沙織
(第二青葉の家)

五月より第二青葉の家、コナラクラス配属となりました。生まれも育ちも浜松の浜松っ子。自分でも変わりますが、好奇心旺盛で、新しいことに挑戦することが好きです。最近では、楽団に入って十年振りトランペットを吹き始めたり、マラソン大会に参加して10kmを完走したり。目標に向かって頑張りが達成したときの達成感はまだありません。コナラクラスでも、色々なことに挑戦して、一緒に成長しながら楽しい時間を過ごせたらと考えています。



木俣幸恵
(青葉の家)

私は物の展開図を考えたり、作るものが好きです。壊れた時「どうなってる? もう壊れているから分解!」や「すぐ作り直せるもので作る?」などいつも考えます。「いいな」と感じた物の中には「これ作れる?」やらなくてもいいことや面倒なことにも面白さがある! やってみることにしています。今は「勝手農業!」と称し職場のプランターで野菜を育てています。間を楽しみながら立ち止まって感じることを日々大切にしています。

小塩報恩会様より発電機を頂きました 工房めい



今回、工房めいでは小塩報恩会様より助成をいただき、発電機を購入致しました。各種イベント時や災害時等、今後の工房めいを支えてくれる大事なものを購入することができました。大切に使いしていきたいと思っております。ありがとうございました。
(野田)

ライオンズクラブ様よりタオルを頂きました! 浜松協働学舎根洗寮

4月6日に、浜松グリーンライオンズクラブ(森山徳正会長)より、会員の皆様から寄せられたタオル175枚を頂きました。利用者さんの代表者が受け取り、感謝の気持ちを伝えました。このタオルは食事の際に使用するためのエプロンや手拭タオルにしたりと、様々な用途に使用させていただきます。また、施設内の衛生美化にも活用することで、清潔で快適な生活をおくることができます。たくさんの方のタオルを頂戴いたしましてありがとうございました。
(大橋)

平成26年度 浜松協働学舎を支える会 会計報告書

取入の部					
科目	中区分	予算額A	決算額B	増減A-B	備考
寄付金収入		1,520,000	1,611,000	-91,000	
	会費収入	1,300,000	1,390,000	-90,000	会費
	寄附金	220,000	221,000	-1,000	一般寄付
雑収入		202,000	229,142	-27,142	
	バザー収入	200,000	227,065	-27,065	やきもの祭り 西区ふれあい りょうかい
	雑収入	2,000	2,077	-77	預金利息
合計		1,722,000	1,840,142	-118,142	

支出の部					
科目	中区分	予算額A	決算額B	増減A-B	備考
一般物品費		30,000	12,047	17,953	事務用品
印刷製本費		200,000	263,588	-63,588	機関紙印刷代、封筒
通信費		170,000	208,308	-38,308	郵送費
交通費		50,000	40,660	9,340	浜松連参加交通費
雑費		100,000	139,660	-39,660	中元 歳暮 団体年会費
小計		550,000	664,263	-114,263	
特別会計繰入金支出		2,620,000	2,442,204	177,796	
	助成金	2,620,000	2,442,204	177,796	防災資機材購入 施設助成
支出計		3,170,000	3,106,467	63,533	
当年度収支差額		-1,448,000	-1,266,325	-181,675	前年度繰越金より

東海地震等の大規模災害に備えるために、防災資機材を用意させていただきました。

浜松協働学舎を支える会にご入会ください

浜松協働学舎を支える会は、浜松協働学舎の事業を支える団体です。障がいのある人が地域で安心して当たり前のように生活できる支援システムを積極的につくっていきたいと思います。どうか皆様の温かいご理解ご支援をよろしく申し上げます。

郵便振替 名古屋 00860-8-35121
浜松協働学舎を支える会

銀行振込 静岡銀行三方が原支店 普通 0171466
浜松協働学舎を支える会



個人会員：年額 2,000 円

法人会員：年額 20,000 円

社会福祉法人ひかりの園 浜松協働学舎

- 浜松協働学舎企画相談室 〒433-8108 浜松市北区根洗町 681 番地の 5 電話 053-430-0596 FAX 053-430-0597
- 生活介護／根洗作業所（定員 20 名） 〒433-8108 浜松市北区根洗町 1117 番地の 1 電話 053-436-5529 FAX 053-436-5746
- 生活介護／青葉の家（定員 50 名）
 - 主たる事業所・青葉の家 〒433-8108 浜松市北区根洗町 667 番地の 3 電話 053-570-1700 FAX 053-570-1701
 - 従たる事業所・第二青葉の家、第二根洗作業所 〒433-8108 浜松市北区根洗町 1107 番地の 4 電話 053-439-8235 FAX 053-439-8236
- 生活介護／工房めい（定員 30 名） 〒433-8108 浜松市北区根洗町 742 番地の 5 電話 053-430-4710 FAX 053-570-2201
- 生活介護／工房ゆう（定員 20 名） 〒431-1112 浜松市西区大人見町 3419 番地の 5 電話 053-570-1310 FAX 053-570-1311
- 障害者支援施設／浜松協働学舎根洗寮（施設入所支援 40 名・生活介護／工房だん 20 名）
〒433-8108 浜松市北区根洗町 681 番地の 5 電話 053-430-0596 FAX 053-430-0597
- グループホーム／ラポール根洗（定員 7 名） 〒433-8108 浜松市北区根洗町 1117 番地の 3 電話 053-420-1325
- グループホーム／すてつぷ（定員 22 名）
 - 主たる事業所・すてつぷ 〒433-8108 浜松市北区根洗町 667 番地の 3 電話 053-570-1702
 - 従たる事業所・ほつぷ 〒433-8108 浜松市北区根洗町 742 番地の 6 電話 053-420-2250
 - 従たる事業所・ぱれっと 〒433-8108 浜松市北区根洗町 740 番地の 3 電話 053-420-0250
- グループホーム／こもれび（定員 6 名） 〒433-8108 浜松市北区根洗町 1108 番地の 2 電話 053-439-6800
- グループホーム／コムニオ湖東（定員 6 名） 〒431-1112 浜松市西区大人見町 3419 番地の 1 電話 053-485-4600
- 遠州根洗寮、しまうま倶楽部 〒433-8108 浜松市北区根洗町 1107 番地の 4 電話 053-439-8235（第二青葉の居前）
- 相談支援事業所まど 〒431-1112 浜松市西区大人見町 3419 番地の 5 電話 053-570-1312 FAX 053-570-1311